

記者の意識

- ◆ 自分の原稿が新聞に載る喜び。大きく扱われるほど喜びは大きい。
- ◆ 世の中をびっくりさせる特ダネを追いかけて、ものにすることに最も燃える。夜回りなどを厭わず。発表ものは“消化試合”だが、書き方次第では大きな扱いに。
- ◆ どんな記事が大きく扱われるかは新聞社によって多少違う。→大きく扱われるようなテーマ、視点(切り口)を念頭に取材・執筆する傾向がある。“ケインズの美人投票”。
- ◆ 他社に抜かれる「特落ち」を避けたい。トップ人事などは勝ち負けがはっきりするので必死に追う。
- ◆ 取材先が評価しても、派手でない記事は社内では評価されない(読者による評価制度がない)。